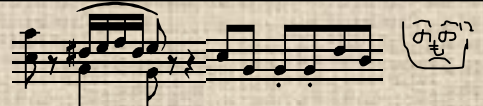


第九たいむず



No.33 2009.1.22

通刊824担当 M

- スロヴェニアの治安はローマの200倍くらい良いのだそうです。

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX: 027-323-0233 (団長渡辺) 携帯電話: 090-1828-8052 (事務局長小野里)

♪ 第6回海外公演発声式が行われました。1月18日(日)

音楽センター会議室にて第6回海外公演発声式が行われました。少々寒い会場での発声式となりましたが、新しいお顔や懐かしいお顔がそろい、団長挨拶、ICECより旅行説明、休憩後練習という運びとなりました。



◆ 次回 2月15日(日) シンフォニーホール(音楽センター裏、市役所の斜め前) 13:30より

* ICECに支払う旅行申込金(内金)40,000円を受け付けます。今回を逃すと振込扱いとなり、振込手数料がかかりますので、この機会にお支払いください。お友達経由もOKです。

* 筆記用具、第九の楽譜、日本の歌の楽譜、旅行申込書、申込金 をお持ちください。

(申込書はなるべく記入の上、お持ちいただきますようお願いいたします。)

3月～5月は高崎市中心公民館

♪ メイコンサートの楽譜(2冊)を販売しています

・日本の歌 100円(海外公演練習にも使います) ・オペラ「雪娘」300円(グリチン・イリヤ和訳)

♪ 「雪娘」楽譜について連絡

①「さよなら太陽祭」P. 17～ 歌う場所について

・それぞれのパートが二部になっていますが、ソプラノ・アルト・テノールが上を歌い、バスは下を歌います。

・P. 24 * 上段の[I Xop.]はカットし、全パート[II Xop.]を歌う。

* バス 1小節目 第1音 ソの音 オクターブ下の ソ に訂正

* アルト・バス 3、7小節目 第1音 た → たい(たい よう) → (たい よう)

・P. 29 * ソプラノ [II Xop.]を歌う

* アルト1小節目から6小節目まで[I Xop.] 7小節目から[II Xop.]の音で歌詞は「が」

* テノール・バス 1小節目から7小節目第1音目まで[I Xop.] 2音目から[II Xop.]

・P. 34 * テノール 2小節目「まつり！」まで歌って 2拍目から[II Xop.]「おお！ー」

* バス 2小節目「まつり！」まで歌って 2拍目から[II Xop.]「りっぱな・・・」

♪ 2009年5月24日メイコンサート(音楽センターにて)

1ステージ: 日本の唄

2ステージ: 大山亜紀子さん(ソプラノ)によるステージ(高崎市出身・第74回日本音楽コンクール2位)

3ステージ: オペラ「雪娘」(ニコライ・リムスキーコルサコフ作曲) (日本語初公演!!)

♪ 「雪娘」あらすじ 第一幕②～第二幕 (次回は第三幕)

(http://homepage3.nifty.com/classic-air/database/korsakov/snegurochka_syp.html より拝借)

ベレンディの都の郊外:ボビルのあばらやとクーパヴァの邸宅

(先週より続き) クーパヴァは雪娘と一緒に誘うが、彼女はレールと一緒にいくわと言う。その時、雪娘を見たミスギールは彼女の美しさに心を奪われてしまう。そして、クーパヴァに「君はレールと行きなさい。自分は雪娘と行く。」と言い出す。これを聞いたクーパヴァは怒って、ミスギールには「さっき一生、私と一緒に暮らすと言ったのに」と言い、雪娘には「私のミスギールを横取りしないで」と叫ぶ。雪娘はミスギールに「私は貴方のものではない」と言って立ち去ろうとする。するとミスギールは「もう自分の心は太陽が沈むのを戻せないように戻することは出来ない」と言って、クーパヴァにつれなく言う。クーパヴァはミスギールの裏切りに哀しみ泣いて逃げ去る。

ミスギールは沢山の贈り物をボビル夫妻に贈るので、ボビル達は雪娘に「親の事を考えて、ミスギールと結婚するように」と言う。恋とはどんなものかを知らない雪娘は、素直に親の言う事を聞いて、レールに別れを告げる。レールはそれを聞いて泣いてしまう。泣いているレールを見た雪娘は「何故、泣くの？」といぶかしむが、理解が出来ない。レールは「君が恋というものを本当に解ったときに、何故、僕が泣いたか解るだろう」と言って駆け去る。

クーパヴァが現れてミスギールの不実を非難するが、ミスギールは「クーパヴァは誘惑に弱いので将来、自分を裏切るかも知れないが、雪娘は純真なのでそんなことはしないだろう。」と妙な言い訳をする。それを聞いたクーパヴァは激しく怒り、彼を呪い皆ミスギールを非難する。クーパヴァは遂に気を失いかけてレールに支えられる。

【第二幕】ベレンディ皇帝の宮殿

柱に絵を描いている皇帝の周りでは盲目の楽士たちが歌を歌っている。楽士たちの歌が終わり、彼らが立ち去ると貴族のベルミアータがやって来て国の繁栄を讃える。しかし、皇帝は「国は冷夏が15年も続いているのは、太陽神ヤリロの怒りがこの国に落ちているためで、この国は決して繁栄などしていない」と言い、「神の怒りの原因は国の人々が愛の情熱を失っているためだ」と言って、年頃の男女を聖なる森に集めて結婚させるように命じる。

その時、小姓がクーパヴァという娘が謁見を願っている事を告げるので、皇帝はこれを許す。現れたクーパヴァ、これまでのいきさを語り、皇帝にミスギールの裏切りを訴える。皇帝はミスギールを捕らえるよう言い、「都の人々を宮殿の庭に招きいれよ」と命じる。二人の伝令は皇帝の命令を皆に伝える。人々が集まり、皇帝を讃える合唱をする。皇帝が現われ、ミスギールを詰問するので、彼はそれを認める。皇帝はミスギールに森への追放を言い渡す。ミスギールは「自分は言い訳をするつもりはありませんが、雪娘を見れば全てお分かりなるでしょう。」と言う。

雪娘がボビル夫妻と共に現れる。人々はボビリスカが美しい飾りに驚くが、皇帝は雪娘の美しさに驚嘆する。皇帝は、彼女こそ太陽神を慰めることができる乙女であると確信し、雪娘に好きな男はいるのか聞く。しかし、雪娘は恋心を感じたことは無いと答えるので、皇帝は明日の朝までに彼女の愛を得たものには褒美を与える事を告げる。しかし、誰も名乗り出るものがないので、皇帝は女官に誰を選んだらよいかと問う。女官達は「レールが一番可能性が高いのではないか」と言う。レールは「雪娘は私にではなく自分の太陽の賛歌を喜んでくれるが、自分自身には好感を持っているわけではない。」と言う。「しかし、太陽の力を借りることが出来れば雪娘に恋心を起こさせることが出来るかも知れない。」と言う。するとミスギールが「自分の罰を取り消してくださるならば必ず自分が彼女の心を勝ち得てみせます」と言う。皇帝はこれを聞き入れ「今夜、若者達と共に聖なる森に集まり徹夜で踊り歌い、日の出と共に太陽神に祈ろう。」と言う。皆が皇帝万歳の合唱をする。

♪ 今年の演奏会ポスターを持って行ってください！

カレンダーに変身させたり、裏紙に使用していただいたりと、再利用をお願いします！

♪ やかんにお湯を沸かしておきますので休み時間にお茶をどうぞ！マイカップ持参してください。

♪ コンサート情報・行事情報

☆合唱団葡萄 第7回演奏会 ←チケットはテノール太田まで

2009年2月11日(水・祝) 前橋市文化会館 小ホール 13:30開場、14:00開演 全席自由1000円

指揮: 八木淳一 →イギリスの音楽(ルネッサンス期の宗教音楽、マドリガル、民謡他)

片山みゆき→近代日本名歌抄(委嘱初演、編曲: 信長貴富、ゴンドラの唄・カチューシャの唄他) 他

①合唱のスタンダード的なイギリスの曲、②皆様にも親しみある大正・昭和時代の日本の名曲を信長貴富さん編曲で、③そして演出付きのシアターピースと、大きく毛色の異なるステージ構成です。

☆翼然音楽(Wing music)サロン・コンサート第一のタベ「すばらしい瞬間を覚えている」(シリーズ4回)

2009年2月13日(金) WING(前橋I. C トイザラス近く) 18:00開場 18:30開演 入場料3500円

出演: 福島明也(バリトン) ユリヤ・レヴ(ピアノ) レオニード・グリチン(チェロ)

グリカ、シューベルト、ロッシニ、メンデルスゾーンの曲を演奏 4回通し券12000円 チケットはユリヤまで 翼然(よくぜん)・・・鳥が両翼を張ったように、左右にひろがっているさま。

☆オペラの幻影～歌劇の大作曲家による室内楽のタベ～ ←チケットはユリヤまで

2009年3月11日(水) 前橋テルサ 18:30開場 19:00開演 全席自由 一般1500円 学生800円

出演: ユリヤ・レヴ、レオニード・グリチン他群響首席奏者

☆「歌声喫茶をもう一度」赤羽楽器主催 詳細は赤羽先生へ

2009年4月5日(日) コートカフェ(高崎市役所21階) 18:00開始 3800円(お食事+ワンドリンク付)